



使用する前に

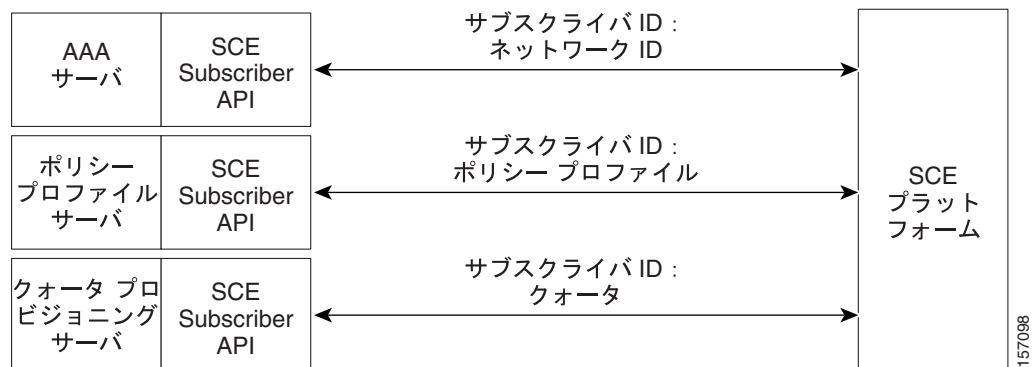
この章では、SCE Subscriber API を使用できるプラットフォーム、API のインストール方法、コンパイル方法、および起動方法について説明します。

SCMS SCE Subscriber API には、外部アプリケーション（ポリシー サーバ）を SCE に直接接続して、サブスライバプロビジョニングを行う機能があります。

サブスライバプロビジョニングは、サブスライバ ID を関連付けに使用して、サブスライバのネットワーク ID、ポリシー プロファイル、およびクォータ特性を更新するプロセスです。Service Control Application for Broadband（SCA BB）のサブスライバの特性の詳細については、「[サブスライバの特性](#)」（p.2-2）を参照してください。

API を複数のポリシー サーバにインストールし、同時に使用できます。また、次の図のように、API ごとにサブスライバプロビジョニングプロセスの異なるパートを実行できます。

図 1-1 複数のサーバにインストールされた SCE Subscriber API



API は Proprietary Remote Procedure Call（PRPC）プロトコルを使用して、SCE との接続上で転送を行います。PRPC はシスコが開発した独自の PRC プロトコルです。



(注) API インスタンスごとに特定の SCE プラットフォームとの接続が確立されます。

SCMS SCE Subscriber API の制約事項

バージョン 3.0.5 の API は古いバージョンと下位互換性がありますが、バイナリ互換性はありません。新しいバージョンを使用するには、古いバージョンの API を使用するアプリケーションを再コンパイルする必要があります。この API は下位互換性があるため、アプリケーションのソースコードを変更する必要はありません。



(注) SCE をバージョン 3.0.5 にアップグレードする場合は、API をバージョン 3.0.5 にアップグレードして、この API を使用するアプリケーションを再コンパイルする必要があります。

SCMS SCE Subscriber API

- [プラットフォーム \(p.1-2\)](#)
- [パッケージの内容 \(p.1-2\)](#)

プラットフォーム

SCMS SCE Subscriber API は、Java バージョン 1.4 をサポートする任意のプラットフォームで実行できます。

パッケージの内容

簡潔にするため、ここではインストール ディレクトリ `sce-java-api-<version>_<build-number>` を `<installdir>` と示します。

`<installdir>/javadoc` フォルダには、SCE Subscriber API JAVADOC マニュアルが格納されています。

`<installdir>/lib` フォルダには、`sceapi.jar` ファイルが格納されています。これは、API 実行可能ファイルです。さらに、API の実行に必要なその他の jar ファイルもこのフォルダに入っています。

表 1-1 インストール ディレクトリのレイアウト

パス	名前	説明
<code><installdir></code>		
	README	API readme ファイル
<code><installdir>/javadoc</code>		
	index.html	すべての API 仕様の索引
	(API 仕様ファイルなど)	API 仕様に関するマニュアル
<code><installdir>/lib</code>		
	sceapi.jar	SCE Subscriber API 実行可能ファイル
	asn1rt.jar	API で使用されるユーティリティ jar
	log4j.jar	API で使用されるユーティリティ jar
	log4j.properties	ロギング機能に必要なプロパティ ファイル
	jdmkrt.jar	API で使用されるユーティリティ jar

パッケージの解凍とインストール

SCMS SCE Subscriber API は SCMS SM-LEG 配布ファイルとの一部として配布され、*sce_api* ディレクトリに格納されます。

SCMS SCE Subscriber API は UNIX tar ファイルにパッケージされています。SCMS SCE Subscriber API の解凍には、ほとんどの Windows 圧縮ユーティリティに含まれている UNIX tar ユーティリティを使用できます。

- [UNIX プラットフォームへの配布ファイルのインストール \(p.1-3\)](#)
- [Windows プラットフォームへの配布ファイルのインストール \(p.1-3\)](#)

UNIX プラットフォームへの配布ファイルのインストール

ステップ 1 SCMS SM-LEG 配布ファイルを解凍して、SCE Subscriber API 配布 tar ファイル `sce-java-api-dist.tar.gz` を特定します。

ステップ 2 配布ファイルを解凍します。

```
#>gunzip sce-java-api-dist.tar.gz
```

ステップ 3 SCE Subscriber API パッケージ tar ファイルを解凍します。

```
#>tar -xvf sce-java-api-dist.tar
```

Windows プラットフォームへの配布ファイルのインストール

ステップ 1 zip 解凍ツール (WinZip など) を使用してパッケージを解凍します。

SCE プラットフォームの設定

ここでは、API を正常に機能させるために SCE プラットフォームで実行される設定について説明します。

- [前提条件 \(p.1-4\)](#)
- [プルモードでの SCE の設定 \(p.1-4\)](#)
- [RDR フォーマッタの設定 \(p.1-5\)](#)
- [RDR サーバの設定 \(p.1-6\)](#)
- [API 切断タイムアウトの設定方法 \(p.1-7\)](#)

前提条件

API は SCE プラットフォーム上の PRPC サーバに接続します。PRPC サーバはシスコが開発した独自の PRC プロトコルが動作するサーバです。詳細については、『*SCE User Guide*』を参照してください。

API を使用する前に、次の点を確認してください。

- SCE が起動され稼働中であり、API のホスト マシンから到達できること
- SCE 上の PRPC サーバが起動されていること

プルモードでの SCE の設定

プルモデル（「[プルモデル](#)」[\[p.2-3\]](#)を参照）で稼働している SCE プラットフォームから、サブスクライバ情報に関する要求を送信できるようにするには、SCE プラットフォームの CLI（コマンドライン インターフェイス）を使用して、次のように設定します。

SCE プラットフォームについての詳細は、『*Cisco SCE 1000 2xGBE Installation and Configuration Guide*』または『*Cisco SCE 2000 4xGBE Installation and Configuration Guide*』を参照してください。

ステップ 1 サブスクライバ テンプレートを設定します。

```
(config if)#>subscriber template import CSV file
```

CSV ファイルのテンプレートおよびフォーマットの詳細については、『*Cisco Service Control Application for Broadband User Guide*』を参照してください。

ステップ 2 マッピングされていないサブスクライバ グループの範囲を設定します。

a. **subscriber anonymous group import** CLI を使用して、ファイルからアノニマス グループをインポートします。

```
(config if)#>subscriber anonymous group import CSV file
```

b. あるいは、**subscriber anonymous group name** CLI を使用して、手動でアノニマス グループを定義します。

```
(config if)#>subscriber anonymous group name NAMEIP-range IP RANGE
```

RDR フォーマッタの設定

- クォータ関連通知の送信に関する RDR フォーマッタの設定 (p.1-5)
- 異なるカテゴリへのクォータ RDR タグのマッピング (p.1-5)

クォータ関連通知の送信に関する RDR フォーマッタの設定

RDR フォーマッタからクォータ関連通知を送信できるようにするには、SCE プラットフォーム上で次のように RDR フォーマッタを設定します。

ステップ 1 RDR-formatter destination CLI を使用します。

```
#>RDR-formatter destination 127.0.0.1 port 33001 category number 4 priority 100
```

異なるカテゴリへのクォータ RDR タグのマッピング

デフォルトでは、クォータ RDR タグはカテゴリ 4 にマッピングされています。別のカテゴリが必要な場合は、次のコマンドを使用します。

ステップ 1 RDR-formatter rdr-mapping CLI を使用します。

```
#>RDR-formatter rdr-mapping tag-ID tag numbercategory-number number
```



(注)

クォータ RDR タグ ID については、『Cisco Service Control Application for Broadband User Guide』を参照してください。

アプリケーションからクォータ関連通知を送信できるようにするには、『Cisco Service Control Application for Broadband GUI』の説明に従って、アプリケーションをイネーブルにする必要があります。設定方法については、『Cisco Service Control Application for Broadband User Guide』を参照してください。

RDR サーバの設定

クォータ通知を API が受信できるようにするには、RDR サーバをイネーブルにして、RDR フォーマットで設定されているポートと同じポート上で待ち受ける必要があります。

- [RDR サーバの設定の確認 \(p.1-6\)](#)
- [RDR サーバのイネーブル化 \(p.1-6\)](#)
- [RDR サーバ ポートの変更 \(p.1-6\)](#)

RDR サーバの設定の確認

RDR サーバの設定を確認するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 `show RDR-server` CLI を使用します。

```
#>show RDR-serverRDR server is ONLINE
RDR server port is 33001
```

RDR サーバのイネーブル化

RDR サーバをイネーブルにするには、次の手順を実行します。

ステップ 1 `RDR-server` コンフィギュレーション CLI を使用します。

```
#>configure(config)#>RDR-server Default RDR server port is 33001
```

RDR サーバ ポートの変更

RDR サーバ ポートを変更するには、次の手順を実行します。

ステップ 1 `RDR-server port` CLI を使用します。

```
#>configure(config)#>RDR-server port port
```

API 切断タイムアウトの設定方法

SCE プラットフォームでは、切断した API を SCE プラットフォームに再接続するためのタイムアウトを設定できます。SCE はタイムアウト中にリソースを解放しないため、データは失われません。タイムアウトが経過しても、API が再接続しなかった場合、SCE は API が切断したとみなし、すべてのリソースを解放します。デフォルトのタイムアウト値は 5 分です。

- [API 切断タイムアウトの設定 \(p.1-7\)](#)
- [切断タイムアウトのデフォルト値へのリセット \(p.1-7\)](#)
- [タイムアウト値の表示 \(p.1-7\)](#)

API 切断タイムアウトの設定

API 切断タイムアウトを設定するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** `management-agent sce-api timeout` CLI を使用します。

```
(config)# management-agent sce-api timeout timeout-in-sec
```

切断タイムアウトのデフォルト値へのリセット

API 切断タイムアウトをデフォルト値にリセットするには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** `default management-agent sce-api timeout` CLI を使用します。

```
(config)# default management-agent sce-api timeout
```

タイムアウト値の表示

タイムアウト値を表示するには、次の手順を実行します。

-
- ステップ 1** `show management-agent sce-api` CLI を使用します。

```
# show management-agent sce-api
```
